



2010年7月1日

通巻1139号

発行：金沢大学教職員組合執行委員会
〒920-1192 金沢市角間町
TEL076-262-6009 角間内線2105
E-MAIL kanazawa@ku-union.org



＜上海 一人情ある都会へ＞

趙 菁（外国語教育研究センター）

上海の魅力は万博だけではありません。

2009年の夏と冬、それぞれ一か月ずつ上海に滞在した。シルクロードの起点である古都－西安出身の私は、上海に魅了されました。それは上海の超高層ビルやノスタルジックな旧租界の建物のせいだけではなく、人情味のある町に変貌している上海により一層惹かれているのです。

私が滞在していた町は桂林路といい、桂林は本来、広西チワン族自治区の地名ですが、上海市にはこのように、中国全土に渡る県名と市名を使い、命名された通りが数多くあります。これは実は植民地時代からの命名でした。1862年、イギリス、アメリカが上海で公共租界（Shanghai International Settlement）を作り、地名に関する諸租界の争いを抑えるために、南北方向の道路は中国の県名で、東西方向の道路は中国の都市名と命名の規則を定めたのです（『上海道路命名備忘録』）。上海人はしばらくこの規則を無視していましたが、1949年以後、次第にこの規則を受け入れていきました。中国政府はこの道路命名のいきさつを上海の歴史に記録し、この規則が今日そのまま使用されているのです。



絶品スープ入小籠包



お茶屋

上海は中国全土の名物料理を堪能できる町です。しかも、それぞれの地方名物料理屋の

店員は、その地方の出身の人が多いです。店員の地方の発音が料理を味わう際の気持の調味料となり、一層その地方の味を引き出し、客を楽しませます。少し前までは上海人は、外来の人には冷たかったのですが、最近はそのようなことはなくなりました。というのは、上海のサービス業は今、ほぼ外来の人で支えられているからです。レストランの壁には「上海没有陌生人」（上海には見知らぬ人がいない、よそ者がいない）とポスターが張られるぐらい、他の地方から来る人が、上海ではもうよそ者ではなくなっています。

私は上海滞在中、家事のお手伝いさんを二回頼んだことがあります。家事のお手伝いさんのほとんどは、上海近辺の地方から来ている女性です。ここ数年、この産業も非常に発達しています。彼女たちが掃除だけではなく、子育て、食事作りも手伝ってくれます。日本のホームヘルパーみたいなものですが、日本の場合は主に高齢者が利用す



上海のシンボルタワー



夜景

るのに対し、中国の場合はすべての年齢層が利用しています。我が家に来たお手伝いさんは30代で清潔感のある女性でした。仕事をする前にきちんと挨拶に来られ、部屋の状態を下見し、仕事の内容も細かく打ち合わせし、とても好感を覚えました。実際の仕事ぶりも申し分ありませんでした。しかも時給は日本円にして200円という値段です！彼女に聞いたところ、仕事がない日はまったくなく、毎日スケジュールがびっしり詰まっています。単価は安いですが、生活には十分とのこと。やはり勤勉な人はどこにいても困らないのです。



野菜市場

上海は高齢者にも優しい町です。町には老人ホームや高齢者レクリエーション施設が年々増え、さらに今までにはなかった高齢者を看病し、臨終までの世話をする慈善事業もスタートされています。町で出会った高齢者はみな穏やかで親切です。話が少しずれますが、上海のレストランではよく高齢者を見かけます。特に地元のお年寄りが多いです。それは実は経済発展と密接な関係があります。



住んでいたマンションの正門

上海はマンション建設が頻繁なため、土地の値段がかなり高騰し、都心部やそれに近いところに家を持っていた従来の上海人は、マンションの売買や賃貸によって、サラリーマンに負けないぐらいの収入を得ています。その従来の上海人はたいてい高齢者なのです。副収入のおかげで高齢者は外食や趣味を楽しんでいます。

私が滞在していたマンション区の警備員は、定年後にこの職に就いた人で、温厚でとても親近感を覚える60代の男性でした。荷物を運んでくれたり、子供にいろいろ話しかけてくれます。彼は毎晩敷地内で安全放送を流して回ります。中国のマンションは同じ敷地に十数棟を建てるのが普通で、敷地の周りは壁があり、敷地への出入りの正門が設けられ、警備員が交替制で24時間勤務しています。毎晩8時に警備員が自転車にスピーカを付けて、敷地内に放送を流します。その内容は「閉好門窓、防火防盜、注意安全、」（しっかり戸締り、火災・強盜防止、安全に注意しよう）です。日本の木拍子よりずいぶん賑やかですが、聞き慣れると、その時間になると戸締りや火の元をチェックする習慣がついてしまいます。しかも、雨の日も雪の日も毎日必ず流れてくるので、感心します。上海は中国でもっとも治安のよい都市といわれている理由は、ここにもあるとつくづく思います。

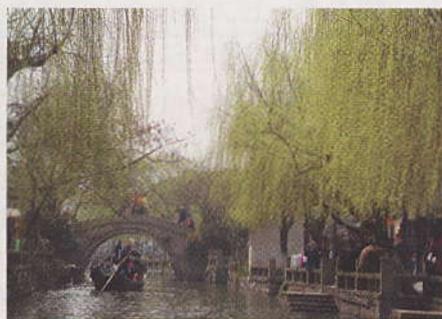
私が滞在していたマンション区の警備員は、定年後にこの職に就いた人で、温厚でとても親近感を覚える60代の男性でした。荷物を運んでくれたり、子供にいろいろ話しかけてくれます。彼は毎晩敷地内で安全放送を流して回ります。中国のマンションは同じ敷地に十数棟を建てるのが普通で、敷地の周りは壁があり、敷地への出入りの正門が設けられ、警備員が交替制で24時間勤務しています。毎晩8時に警備員が自転車にスピーカを付けて、敷地内に放送を流します。その内容は「閉好門窓、防火防盜、注意安全、」（しっかり戸締り、火災・強盜防止、安全に注意しよう）です。日本の木拍子よりずいぶん賑やかですが、聞き慣れると、その時間になると戸締りや火の元をチェックする習慣がついてしまいます。しかも、雨の日も雪の日も毎日必ず流れてくるので、感心します。上海は中国でもっとも治安のよい都市といわれている理由は、ここにもあるとつくづく思います。

最近、スーパーマーケットと住宅区を無料で往復する買い物バスが運行され、庶民の間で大変好評を得ています。自家用車の所有者も増えていますが、やはり大半の人は車を持っていません。この無料バスは、スーパーの周辺や少し離れたところの住宅区を、毎日数十回廻っています。中は小ぎれいでゆったりしていて利用しやすいです。貧富の差が特に激しいといわれている上海では、このような庶民の味方となるシステム、施設が実に増えています。

今の中国、そして上海は、外から見ると理不尽やおかしいところがまだ多くありますが、十数年離れていた中国人である私から見ると、中国も上海も確実に良くなっています。それは経済だけではなく、人々の心持ち、他人への心遣いも豊かになっているのです。このような人間性の発展が、これからも持続していったほしいものです。



上海近辺の水郷——周庄



周庄



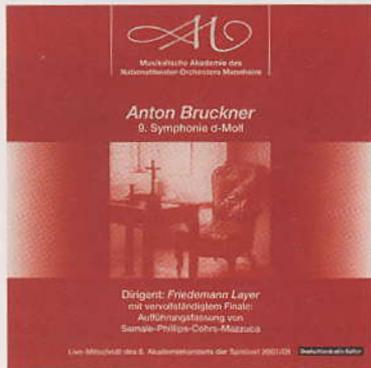
繁華街

音楽の小窓



四次元空間に広がる幻の大聖堂
—ブルックナーの最期の交響曲—

理工学域・電子情報学類 藤崎 礼志



音楽とは、我々が実在する三次元空間と時間の流れを利用し、聴覚と記憶に訴える四次元的芸術である。特に、交響曲は大規模な四次元的構造物と言えるが、誰よりも大きな大聖堂を交響曲で造り上げたのがブルックナーである。

指揮者アーノンクールは、ブルックナーを「別の銀河からの流星 (ein Meteor aus einer anderen Galaxie)」と呼んだ。ブルックナーの音楽の大きさ、美しさ、独自性、超越性、それと同時に、聴く人の驚きと感動を表すのに最適な比喻である。

残念ながら、ブルックナーが生きた時代、彼の交響曲は受け入れられなかった。当時の印刷版は、彼の意志とは無関係に、編集者による改訂（カットと管弦楽法の変更）がなされていた。一方、ブルックナー自身、第五、六、

七番以外は生涯改訂し続けた。その辺の事情と数種の原典校訂版の差異の詳細は、根岸一美『ブルックナー』（音楽之友社）に譲ることとし、最期の交響曲第九番二短調に注目したい。第九番フィナーレ無しには、ブルックナーの交響曲、いや彼の音楽全体を語れないからである。

通常、第九番は未完で第三楽章アダージョまでとされる。第三楽章にはブルックナーが「この世との別れ (Abschied vom Leben)」と読んだコラールがあるため、第三楽章までで充足しているとされる。

ブルックナーは、1896年10月11日午後3時に亡くなる。享年72歳。当日の午前中には第九番フィナーレを作曲していた。遺体は彼の寝室に三日間安置された。ブルックナーの遺言に忠実であれば、フィナーレ自筆譜は全てウィーン宮廷図書館に遺贈されるべきであったが、ブルックナーの最後の書記マイスナーは、弔問した友人たちに、形見としてフィナーレの草稿やスケッチを渡してしまったとされる。実際、ブルックナーの弟子シャルク兄弟は弟のフランツが亡くなる1931年までフィナーレの一部を独占し続けることになる。

幸い、ブルックナー没後百年を迎える少し前、1983年から84年の間に、サマーレとマツツーカーが、それまで知られていなかったフィナーレの多くの断片を発見して以来、今日までにフィナーレ665小節中442小節が発見されている。直筆総譜には、通し番号と各譜に手を加えた日付が記されており、紛失した部分は容易に特定される。フィナーレ作曲開始は1895年5月とされる。フィナーレ譜の最初の日付は1895年6月8日である。

その断片をアーノンクールの独語と英語の解説と共に聴くことができる。それが小文で紹介するCD “Wie ein Stein vom Mond (月から落ちて来た石のよう)” (RCA/BMG 543322) である。それを聴くと、一部は完全に完成しており、一部は主旋律だけであるが、残すは管弦楽法による装飾だけで、コーダ（終結部）を除いて骨格部は完成していたことがわかる。ブルックナーの実質的な最期の作曲部分、すなわち、コーダの導入部はCDの最後に聴くことができる。

もう一つ紹介するCD (ASIN: B00307ZDXY) は、先のサマーレとマツツーカーにフィリップスとコールスが加わり完成させた補筆完成版717小節の最新版（コールスによる2008年改訂版）である。ブルックナーの交響曲は、フィナーレのコーダでそれまでの主題が全て融合し、重厚なフーガとなって、神聖な宗教的大建築物を造り上げるという特徴を持つ。この特徴を第九番フィナーレのコーダ補完に援用したのである。

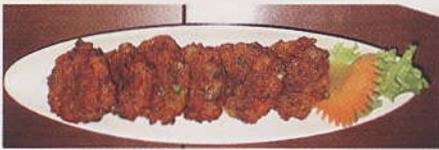
コーダはブルックナー自身のものではないという不満は残るものの、第九番フィナーレはある方が良い。ブルックナーは最期の交響曲を「愛する神に捧ぐ (Dem lieben Gott)」とした。ブルックナーのその他の作品では、ワーグナーやマーラーとは異なり、人間的な感情は昇華されるが、フィナーレには、臨死への驚愕という作曲家自身の感情の吐露が初めて見られる。1896年7月9日に持病の肺炎の発作を起し、7月17日に三度目の終油の秘跡を受けた。現存する譜の最期の日付は8月11日である。「どうかフィナーレを完成させるまで、私の命を奪わないで下さい。私の最期の交響曲をお受け取りください。」という魂の叫びが聞こえてくる。神への祈りと職人的作曲に身を捧げた壮絶な生き様が見えてくる。終末の苦難の様な導入部の後、テ・デウム冒頭のたゆたうコラールの伴奏に織り成す、新しい天地の神聖な輝きを表現するような流れるメロディー。第九番を第三楽章アダージョまでで良しとするのは、「ベートーベンの第九に『歓喜の歌』はいらない」と言っているようなものである。

おあめめ

ちよっぺいほ店

スパイスボックス
田邊 浩
人間社会研究域人間科学系

なにか美味しいものを食べようと思ったときに、みなさんはどのようにしてお店を探しますか。私が最近、頼りにしているのは、「ふりむけばスカタン」というブログです (<http://goldsmile.exblog.jp/>)。スカタンと名乗る女性によるブログですが、お店の描写がとても巧みで、実際にその店に行ってみたくになります。そしてこのスカタンさん、よく飲むし、よく食べる。いまではただその食べっぷりを楽しみに、しばしば訪問しています。そのスカタンさんのブログで何度となく取り上げられ、激賞されているのが、今回紹介するお店『スパイスボックス』です。この記事を書くために、2度にわたってお訪ねし、お料理をいただきました。



スパイスボックスという名前から想像できるように、南インド、スリランカ料理のお店です、まずは前菜(タパス)をいただきます。このタパス、実に300円でいろいろなものがあります。よくわからないのでとりあえず盛り合わせを。するとパコラ(インド風天ぷら)やトマトチャート(スパイスの利いたトマトサラダ)などが出てきます。これが辛くて実にうまい。

お次は当然、タンドリー料理。チキンやら白身魚やら。インドやスリランカのビールもいただいておりますが、すぐにインド産のワインに移行。で、さらにケバブ(肉類のロースト)へ。コットウロティというスリランカ風そばめしやら、ドーサ(豆粉のクレープ状の料理)やら、そしてもちろんカレーもいただかないわけにはいきません。

スパイスボックスの料理を言葉で表現するならば、「問いが立っている、すなわち複雑な味わいを持ちながらも、何を作りたいのかがきわめて明確な、曖昧さのない、エッジのきいた料理」といえるでしょう。たんに辛いだけではないのです。

要は、食べてみてください、他の店と比べてみてください。私の言葉はご理解いただけるものと思います。また、このお店、とにかくとても安いので、「こんな値段でやっていけるのか」、と店長のフェルナンドさんに尋ねたところ、「ほとんどもうけにならない料理もたくさんある」そうです。もうけはドリンクに依存しているそうなので、ぜひともドリンクを頼むのを忘れなく。

このお店、けっしてつぶしてはいけません(いつ行っても空いています)。スカタンさんも主張されているように、「金沢にエスニック料理の火を消さない」ためにも、どんどんどご利用いただければ幸いです。



住 所：金沢市片町2-30-8
営業時間：18:00~翌3:00
定休日：なし

座席数：30席
駐 車 場：なし
電 話：076-234-3313

○○○編集後記○○○

最近NHKの朝7時ぐらいの番組でよく上海万博のことが紹介されています。なぜか4歳の長男がその番組に釘付けになり、「万博にいきたい!」と強く頼んできます。夏休みに万博に行かれる方は、ぜひ上海の町も人情も堪能してきてください。私は万博よりブルックナーの交響曲で造り上げられた大聖堂をゆっくり漫遊したいです。あと、スパイスボックスのパコラとトマトチャートがとても気に入ります。やはり一度足を運ぶべきですね。

(編集者T)